

認定書

国住指第 3611 号
平成 26 年 2 月 12 日

日鐵住金建材株式会社
代表取締役社長 増田 規一郎 様

国土交通大臣 太田 昭宏



下記の構造方法等については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法第 2 条第七号並びに同法施行令第 107 条第一号及び第二号（床：2 時間（第一号）、1 時間（第二号））の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
FP120FL-0122
2. 認定をした構造方法等の名称
普通コンクリート・デッキプレート造床（デッキ合成スラブ・連続支持）
3. 認定をした構造方法等の内容
別添の通り

（注意）この認定書は、大切に保存しておいてください。

1. 構造名

普通コンクリート・デッキプレート造床（デッキ合成スラブ・連続支持）

2. 寸法及び形状等

（寸法単位：mm）

項目	申請構造
床厚	80 以上
荷重と支持間隔の関係	自重を含めた全荷重 (W) × 支持間隔 (L) の 2 乗 = 141kN 以下 (一般的な支持間隔と荷重を表-1 に示す。)
支持	連続支持

3. 構成材料

1) 主構成材料

（寸法単位：mm）

項目	申請構造
①デッキプレート	<ul style="list-style-type: none"> ・規格 JIS G 3352 （デッキプレート） ・厚さ 1.0 ～ 1.6 ・山高さ $120_{\pm 1.5}$ ・働き幅 $600_{+8, -2}$ ・種類記号 (1)～(3) のうち、いずれか一仕様とする (1) SDP2 (2) SDP2G (3) SDP3
②コンクリート	<ul style="list-style-type: none"> ・種類 普通コンクリート ・呼び強度 18、21、24 N/mm² ・厚さ デッキプレート山上から 80 以上

2) 副構成材料

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
①ひび割れ拡大防止用鉄筋	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 溶接金網</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS G 3551 ・種 類 (イ)～(ニ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (イ) WFP (ロ) WFC (ハ) WFR (ニ) WFI ・断面寸法 線径 6 以上 ・間 隔 100 以下×100 以下 ・かぶり厚さ 床板上面から 30 以上 <p>(2) 鉄筋（異形鉄筋）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 1)、2)のうち、いずれか一仕様とする 1) JIS G 3112 （鉄筋コンクリート用棒鋼） <ul style="list-style-type: none"> ・種 類 (イ)～(ホ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (イ) SD295A (ロ) SD295B (ハ) SD345 (ニ) SD390 (ホ) SD490 2) JIS G 3117 （鉄筋コンクリート用再生棒鋼） <ul style="list-style-type: none"> ・種 類 (イ)、(ロ)のうち、いずれか一仕様とする <ul style="list-style-type: none"> (イ) SDR295 (ロ) SDR345 ・断面寸法 D10 以上 ・間 隔 200 以下×200 以下 ・かぶり厚さ 床板上面から 30 以上
②スペーサー	<p>(1)、(2)のうち、いずれか一仕様とする</p> <p>(1) 鉄線</p> <ul style="list-style-type: none"> ・線 径 4 以上 ・間 隔 1000 以下 <p>(2) セメントモルタルブロック</p> <ul style="list-style-type: none"> ・寸 法 かぶり厚さ 30 以上を確保するもの ・間 隔 1000 以下
③はりと床版の接合部材	<p>頭付きスタッド</p> <ul style="list-style-type: none"> ・規 格 JIS B 1198 （頭付きスタッド） ・寸 法 径 16×150 以上 ・間 隔 300 以下

(寸法単位：mm)

項 目	申 請 構 造
④はりとデッキプレート の接合方法 (仮止め)	(1)～(5)のうち、いずれか一仕様とする (1) アークスポット溶接 (2) すみ肉溶接 (3) 焼抜き栓溶接 (4) プラグ溶接 (5) 打込み鉚

表-1 一般的な支持間隔と荷重

支持間隔 (mm)	自重を含めた全荷重 (N/m ²)
2550 以下	21,690 以下
2600	20,857 以下
2700	19,347 以下
2800	17,990 以下
2900	16,765 以下
3000	15,671 以下
3100	14,672 以下
3200	13,773 以下
3300	12,947 以下
3400	12,197 以下
3500	11,513 以下
3600	10,883 以下
3700	10,302 以下
3800	9,764 以下
3900	9,273 以下
4000	8,812 以下
4100	8,390 以下
4200	7,993 以下
4300	7,628 以下
4400	7,283 以下
4500	6,965 以下

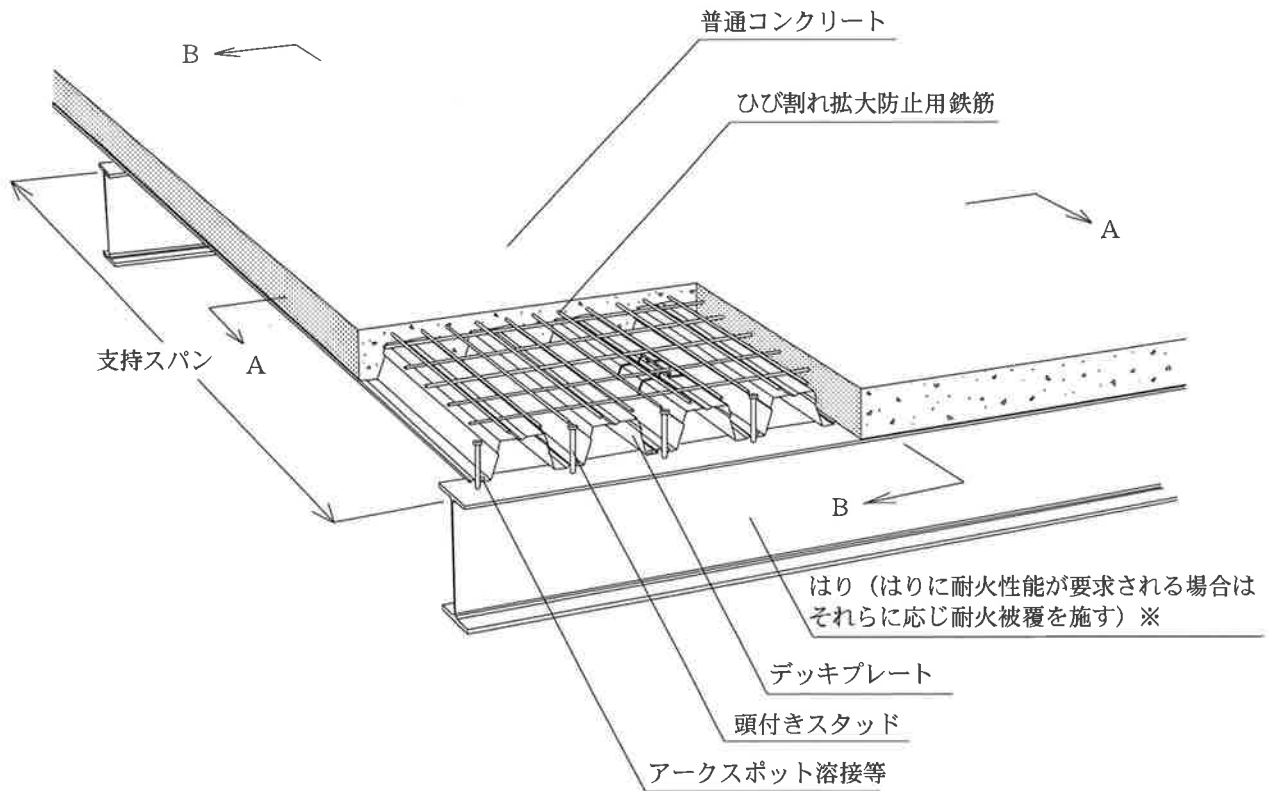
注) 支持間隔が表の中間の値の場合においても、 $WL^2=141\text{kN}$ 以下であることを確認すること

W : 自重を含めた全荷重 (N/m²)

L : 支持間隔 (mm)

4. 構造説明図

[1] 透視図

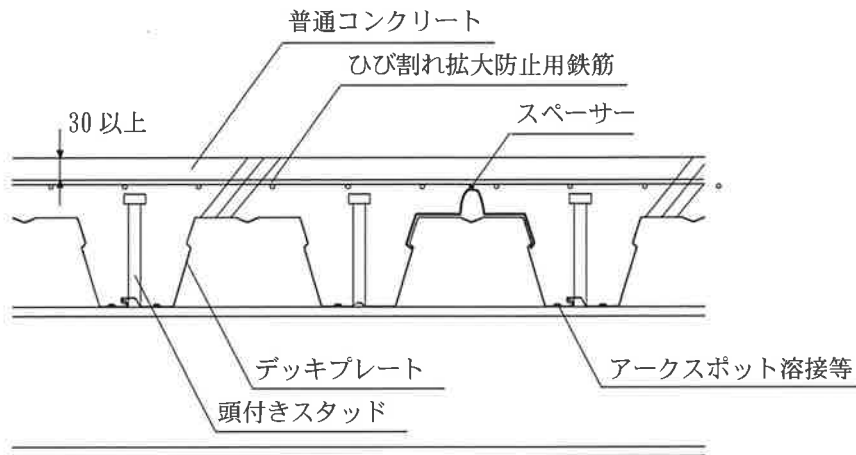


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

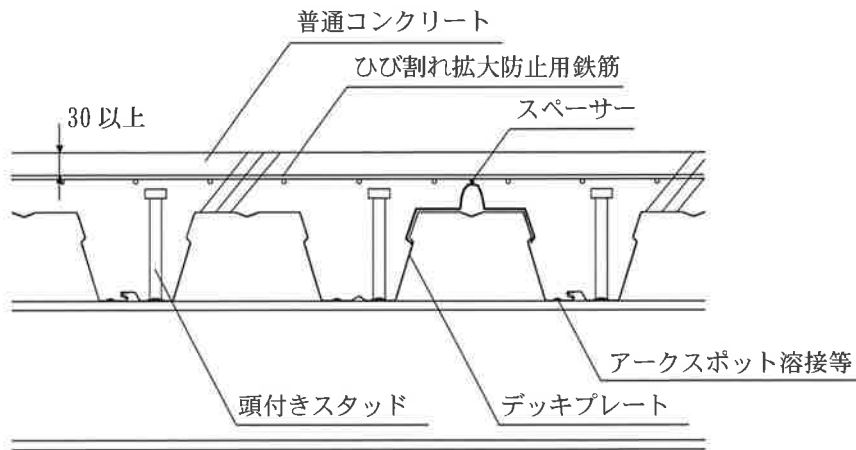
※: 本評価内容に含まない

[2] A-A断面図

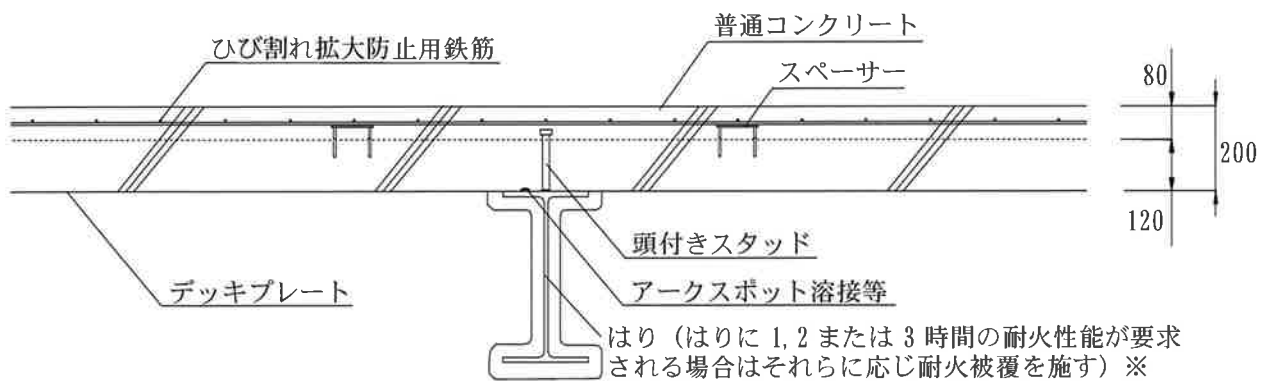
(寸法単位: mm)



[3] 中間梁断面図



[4] B-B断面図

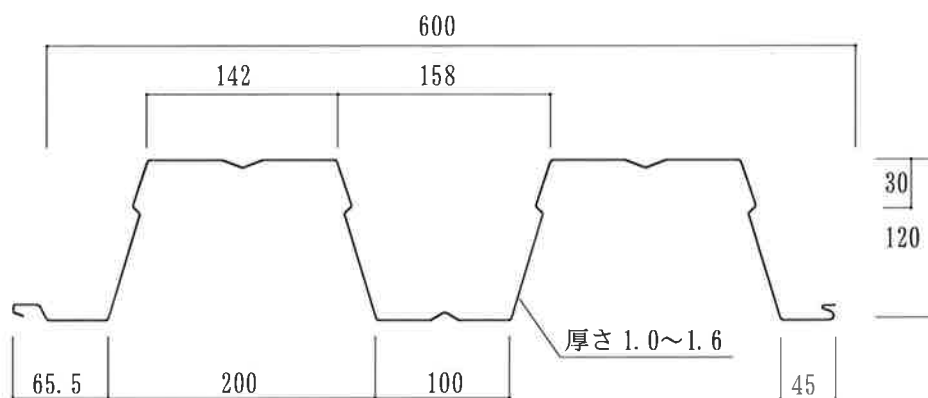


注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

※: 本評価内容に含まない

[5] デッキプレートの形状・寸法

(寸法単位：mm)



注) 寸法および材料構成は2および3のとおり

(別添-7)

5. 施工方法等

<施工図>

4. 構造説明図と同じ

<施工手順>

1) デッキプレートの敷込み

デッキプレートを墨出し線に合わせて梁に配置し、デッキプレートをはりにアークスポット溶接等で仮止めする。

2) 床スラブとはりとの接合

床スラブと鉄骨はりとは、頭付きスタッドで結合する。

頭付きスタッドの接合方法は、平成 14 年国土交通省告示第 326 号の規定または「鉄骨工事技術指針・工事現場施工編」（日本建築学会）もしくは「各種合成構造設計指針・同解説」（日本建築学会）によるものとする。

3) ひび割れ拡大防止

コンクリートのひび割れ拡大防止のためスラブ上面より約 3cm の位置に溶接金網または異形鉄筋を設置する。溶接金網または異形鉄筋の施工については、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」および「鉄筋コンクリート造配筋指針」に準拠する。

4) コンクリート打設

鉄筋が移動しないよう注意しながらコンクリートを不陸なく打設する。

コンクリートの施工については、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。

5) コンクリート仕上げ

コンクリートの表面に金ごて等の仕上げを施す。

6) コンクリート養生

施工後の養生は、日本建築学会「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」に準拠する。